TOKYO発　fax 03-3595-6920　email t-hatsu@tokyo-np.co.jp　T発

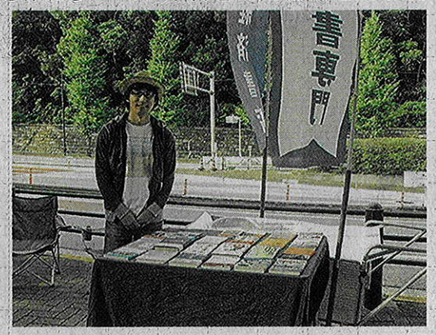
サブカル入門

リヤカーブックス

ビジネス書20種を厳選

品川のビジネス街で、毎日リヤカーを引いている若者がいる。現在26歳の木村貴則さんは、リヤカーに本を積んで売り歩くビジネス書専門の移動型書店「リヤカーブックス」の店長だ。品川と大崎の間のオフィス街を中心に、公園などの空きスペースで店を開いて約20種のビジネス書を販売する＝写真。「昔ながらの豆腐屋さんのような書店です」と木村さん。開店したのは今年の6月30日。当初は苦戦したものの今では顔なじみの客も増え、多いときは日に数十冊もの売り上げがある。当然、雨の日は休業だ。

発案者は、ニュースサイト「品川経済新聞」などを運営するノオト（品川区）の宮脇淳社長。ビジネスマンが大勢いる品川・大崎間に書店が少ないことに着目した宮脇さんが木村さんに声をかけ、リヤカーブックスが実現した。「面白そう！と思って飛びつきました。実際、このあたりには同じようなベストセラーが置いてある大手書店があるだけで、ビジネス関係の隠れた良書を売っている店が少なかったんです」と語る木村さん。販売する本はすべて、木村さんと宮脇さんが読んで決めている。



ネーミングライツ制を採っており、8月はあるビジネス書とタイアップして街を歩き回った。「リヤカーブックスは書店であるのと同時に一つのメディア。多くの人に面白がってもらいたいですね」

（大山くまお）

【次回は、なでしこ寿司です】

運勢

4日（仏滅）

ね年　小倉の山に鹿鳴きおる。これ誠心をもって訪ねよとの知らせ
うし年　欲張り意地を張れば、人生障害諸処より起こる
とら年　競技でも芸事でも相手があるうちは本物ではない
う年　酒は百薬の長ともなり百毒の長ともなる。本日脱線なくして大吉日
たつ年　根本に於いて天地に通ずるモラルをもっておれば少々の失敗も無難である
み年　スポーツは勝つことでなく参加して楽しむ事である
うま年　声声相聞こえて騒がし。徒に多忙を極めて功あらず
ひつじ年　深き河は音なく流るるという。静かなれば難をまぬがる
さる年　田園交響曲いづことなく聞こえ来たり心気爽やか。芸能家大吉
とり年　お祝い事の御飯実に美味しくできた様にて来賓客多き日
いぬ年　衆人は言葉多し、小人は言葉妄なり。言語特に慎めい年　財は煩悩罪業の因縁となる事多し。金銭関係特に注意

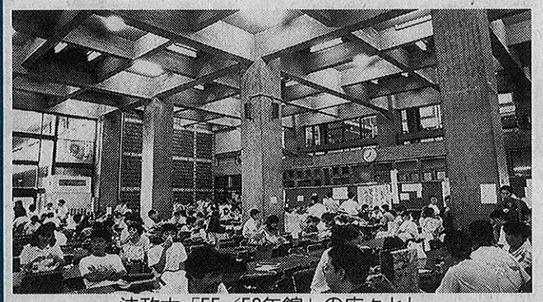
（松雲庵主）

LABI1 IKEBUKURO モバイルドリーム館

法政大「55／58年館」建て替え計画

残したい 青春の学び舎

開かれた大学の象徴として親しまれた法政大学市ケ谷キャンパス（東京都千代田区）の校舎「55／58年館」の建て替え計画が浮上した。首都圏の大学では名物建築が取り壊される例が相次ぐ。歴史ある学舎を惜しむ声が上がっている。



法政大「55／58年館」の広々とした1階ホール（大江新教授提供）

「僕の中では、まだまだモダンで新しい校舎のイメージ。入学当時はこんなにすばらしいところで勉強できるんだ、という喜びがあった。できれば補修などをして、残してもらいたい」

法政大OBのシンガー・ソングライターみなみらんぼうさん（一九六七年卒）は寂しげに語る。

校舎は一九五五年から五八年にかけて建てられた。七階建てで、仕切りのない広大な学生ホールを中心に置いたのが特徴だ。故丹下健三氏とともに戦後建築をリードした故大江宏氏が設計した。

大江氏の息子で法政大教授の大江新さん（都市形成論）は「ホールや校舎前の広場は、開かれた自由な大学の理念を体現している。内部の伽藍をイメージさせるつくりなど日本的な要素もある」と言う。

外観は典型的なモダニズム建築。派手さがない半面、今でも古くささを感じさせない。「斬新で大胆な建築だ。当時は専門誌だけでなく、一般紙が取り上げるなど社会に驚きをもって迎えられた」と、同大デザイン工学部の陣内秀信教授（建築史）は語る。日本建築学会賞なども受賞した。

関係者によると、建て替え方針は以前からあったが、老朽化などを理由に、今春具体化した。これに対しデザイン工学部の教授らが、現校舎の改修で対応すべきだと提言し、九月には日本建築家協会関東甲信越支部も保存活用を求める要望書を提出している。

大学の名物建築は相次ぎ消えている。二〇〇〇年以降でも▽学習院大のピラミッド校舎（前川国男氏設計）▽東京女子大の寮と体育館（A・レーモンド氏設計）▽「国連ビル」の愛称があった早稲田大文学部33号館（村野藤吾氏設計）▽日大の旧本部だった法学部図書館（日大復興部設計）▽慶応大の研究室棟・新万来舎（イサム・ノグチ氏と谷口吉郎氏の共同設計）などが壊された。

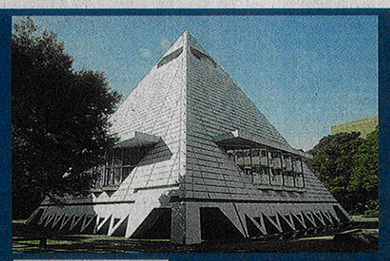
「大学経営の立場からは、情報インフラなどを整備した新しい建物で、多くの学生を集めたくなる」と「学び舎拝見」の著書がある内田青蔵神奈川大教授はみる。「一方、古い建物に独自の伝統や歴史、象徴性を見いだせれば保存活用の道は開ける。国の重文になった早大大隈講堂、登録文化財になった青山学院大の間島記念館が好例だ」

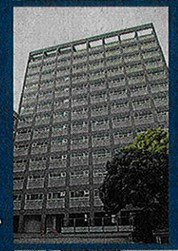
近代建築の保存を提言するDOCOMOMO・Japanの兼松紘一郎幹事長は「モダニズム建築は、派手な装飾などがなく、保存の声が高まりにくい。だが現在の建築の源流であり、しっかり評価すべきだ。大学ならば、先人から受け継いできた『建学の精神』を壊すことにならないか、考えてほしい」と話している。

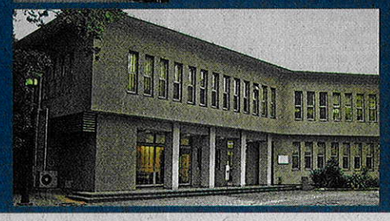
文・原昌志／写真・淡路久喜／紙面構成・橋本綾香

「55／58年館」の前で、保存の意義を語る同大デザイン工学部の陣内秀信教授㊧と大江新教授＝東京都千代田区で

「ピラミッド」「国連ビル」…次々姿消す







㊤2008年に解体された学習院大のピラミッド校舎（学校法人学習院提供）
㊥2007年に解体された早稲田大文学部33号館
㊦2003年に解体された慶応大の新万来舎（いずれも兼松紘一郎さん撮影）